日本史

授業設計を学び直し、歴史から生きるヒントを学ぶ活動を改善

栃木県立宇都宮東高校・附属中学校
野澤宏光 のざわ・ひろたか



同校に赴任して4年目。地理歴史・公民科。3学年担任。

学校概要

◎設立　1963（昭和38）年　◎形態　全日制／普通科／共学
◎生徒数　1学年約160人
◎2024年度卒業生進路実績　国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、お茶の水女子大、東京大、東京科学大、一橋大、横浜国立大などに82人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ314人が合格。

2019年12月号に登場



2019年12月号に掲載した野澤先生の記事は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。https://view-next.benesse.jp/view/bkn-hs/article04690/または下記の2次元コードからアクセスしてください。

私の授業、こう変わりました

前任校では、生徒が歴史から生きるヒントを学ぶ活動に2コマで取り組む「2ターム授業」を行っていました。前半のAタームでは、生徒は私が出す問いについて考えるために必要な知識を習得し、後半のBタームでは、グループで議論して問いの解答を作成しました。歴史を学ぶことで得られる先人の教えは人生に役立つことを実感してほしい、協働学習を通じて自分に合った学び方を見つけてほしいと考え、本校でも同じ授業をしたところ、生徒から「教科書の内容の学習を早く終わらせてほしい」「この授業で大学入試に対応できるのか」といった声が上がりました。そこで、歴史から生きるヒントを学べるような問いは「MQ（Main Question）」として単元ごとに、段階を追ってMQを考えるための「SQ（Sub Question）」を1コマごとに設定。単元内の各コマはMQ・SQを考えるために必要な知識を習得した上でSQに取り組ませる構成にし、MQの解答は単元の最後に考えさせています。

※プロフィールは、2025年3月時点のものです。

授業リポート

本時の概要

［対象］２年生　［教科・科目］地理歴史・日本史探究
［単元］近世・幕藩体制の成立と展開・幕政の安定
［単元目標］幕府はなぜこれまでの政治を転換したのか、また、それは何にどのような影響を与えたのかを説明することができる。
［授業時数］全２時間のうちの１時間目
［本時の目標］文治政治への転換とその影響について、知識をつなげて理解し、言語化できるようになる。

DOWN LOAD 単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/ または右の２次元コードからアクセスしてください。



1 単元のMQを提示　3分間

野澤先生は、江戸幕府が政治を転換した影響の例として、政治の転換前と異なり、民衆は犬を見ても鍋を用意しなくなったことを説明し、「幕府はなぜ、これまでの政治を転換したのか。また、それは何にどのような影響を与えたのか」と、ＭＱを提示した。そして、「幕府が政治を転換した背景や与えた影響について考えるために、まずは本時と次時のＳＱに取り組もう」と伝えた。

継続している点　以前と同様に、授業を通じて考えてほしい、生徒が歴史から生きるヒントを学べるような問いを投げかけています。



2 MQ・SQを考えるために必要な知識を習得　15分間

生徒は、ＭＱ・ＳＱを考えるために必要な知識を習得するため、教科書や資料集などを見ながら、事前に配布されたプリントの空所補充問題の答えを考えた。10分間の個別学習の後、そこで気づいた自分の課題に生徒は様々な方法で取り組んだ。分からない点を周囲の生徒に聞いたり、自分が理解したことを他者に説明したりする生徒がいる一方で、個別学習を継続する生徒もいた。

改善点　生徒一人ひとりが理解を深めたいことを自分で決めて、学び方も自分で選ぶ自己調整学習を取り入れました。また、生徒の知的好奇心を満たしつつ、大学入試にもしっかりと対応するために、プリントに掲載する情報量は以前よりも増やしました。



3 重要事項を解説　25分間

野澤先生は、徳川家綱から綱吉までの時代の政治や社会情勢などを解説。重要事項については、重要度を◎・○・△で示した。「譜代大名と旗本の違いは何か」「慶安の変で牢人が蜂起したのはなぜか。１分間で考えて」などと野澤先生が発問すると、席が隣の生徒同士で話し合った。そうした問いを重ねながら、野澤先生は解説を進めた。

改善点　解説する際には、生徒に度々問いかけ、自分の言葉で答えをアウトプットさせるようにしています。それは、授業が教師からの一方的な発信とならないようにするためであり、重要事項の意味を理解しているかを生徒自身に確認させたり、ＳＱを考える際にポイントとなる歴史的事象の背景や変化、影響を生徒に気づかせたりするためでもあります。



4 SQに取り組む　2分間

生徒は事前に配布されたＳＱ「『戦国時代の遺風』はどんなことか。また、その遺風をなくすために、家綱と綱吉はどのような政策を行い、それは何にどのような影響を与えたのか」に取り組んだ。本時の授業時間は通常よりも５分間短く、ＳＱについて考える時間を十分に確保することができなかったため、野澤先生は、各自でＳＱの答えを考えて後日提出するよう、生徒に指示した。

発問・課題設定の観点

MQについて段階を追って考えられるよう、SQを設定



本単元では、江戸幕府が武断政治から文治政治に変化していった時代を取り上げています。その変化は現代社会にも影響していること、例えば犬をペットとする文化につながっていることに生徒が気づけるよう、単元のMQを設定しました（**図1**）。

MQは前任校での実践と同様、歴史から生きるヒントを学べるような問いにしていますが、MQについて段階を追って考えられるよう、SQを加えました（**図1**）。前任校では、生徒の解答が私の想定外のことがあり、問いが抽象的過ぎるのではないかと当時、考えました。そして、歴史的事象の背景や変化、影響に生徒が気づけるような問いを適宜出すようにしていました。本校では、そうした問いをSQに位置づけ、生徒が習得した知識を整理してからMQに取り組めるようにしました。MQやSQの文言は、生徒が教科書などをより参照しやすくなるよう、改訂を重ねています（**図2**）。

MQやSQを考えるために必要な知識の習得については、自己調整学習を取り入れました。生徒はまず、事前に配布したプリントを活用して知識を整理します。プリントには、空所補充問題があり、教科書などを読みながら考えて答えを書く生徒もいれば、答えが書かれたプリントを見て空欄を埋めてから教科書をじっくり読む生徒もいます。そして、10分間は個別学習とし、5分間は協働学習もできる時間としました。その5分間は周りと学び合ってもよいですし、個別学習を継続することも可能です。生徒が自分の学習状況に応じて学び方を選べるようにしました。

MQは単元の最初に示し、SQは事前に配布するプリントで示します。生徒が授業を見通して自分で学び方を考え、自分で学びの意味づけをすることを通じて、自律的に学習する力を育みたいと考えています。

図1　本単元のMQ、本時と次時のSQ

MQ　幕府はなぜ、これまでの政治を転換したのか。また、それは何にどのような影響を与えたのか。

SQ1　「戦国時代の遺風」はどんなことか。具体的に挙げてみよう。また、その風習をなくすために、家綱と綱吉はどのような政策を行い、それは何にどのような影響を与えたのか。

SQ2　貨幣改鋳を行った背景を踏まえて、その政策の意図と影響を考えてみよう。

SQ3　朱子学者である新井白石が行った政策のねらいは何か。当時の将軍位継承の状況を踏まえて考えてみよう。

SQ4　海舶互市新例が出された背景と、その影響について説明してみよう。

図2　MQの改訂前と後（例）

改訂前	藤原四兄弟はなぜ、相次いで出世することができたのか。
改訂後	律令が制定される前と後で、朝廷の政治やその担い手は、どのように変わったのか。

※図1、図2ともに学校資料を基に編集部で作成。

学習評価の工夫

SQの解答を「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料に



MQとSQの解答は、定期考査前までに提出としています。MQの解答は、生徒同士で話し合わせた後に提出させ、匿名にした解答の一覧を配信し、生徒間でコメントできるようにしています。SQの解答は添削して生徒に返却します（**図3**）。重要な歴史的事象を踏まえているか（例えば、本時のSQ1では「末期養子の禁の緩和」や「殉死の禁止」など）、何がどのように変化したか、その変化は何に影響したかが書かれているかといった点を見て、「思考・判断・表現」の観点について評価しています。

図3　SQの添削例（図1のSQ1　生徒の解答と先生のコメント）

生徒の解答

戦国時代の遺風：主人の死に殉じる殉死の考え方→主人個人に仕える武力で地位と権力が決まる下克上の風潮

上の遺風をなくすために、家綱は殉死の禁止をし、主人の死に殉じる戦国時代の風習を廃止し、家臣には主人個人に仕えさせるのではなく主人の家に仕えさせるようにした。綱吉は武家諸法度天和令を出して学問に励むよう促したほか、服忌令を出し喪に服すことや忌引の期間を規定することで死を避ける風潮を促した。また、生類憐れみの令を出して生類の殺傷を禁止することで慈愛心の醸成を促した。

先生のコメント

いいですね！　ちなみに、戦国時代の遺風の具体例にはどんなものがありますか。また、「学問に励むよう促した」は正しいですが、より正確にするなら、「どんな学問を奨励した」のでしょうか。武士に学問を学ばせることを通して、どんなねらいがあったのでしょうか。そこに、各藩（岡山藩や会津藩、水戸藩など）が儒学者を呼んで家臣の教育に力を入れた理由が隠れています。

※学校資料を基に編集部で作成。

授業設計を一から学び直す

前任校で手応えを感じていた「２ターム授業」を本校でも行ったところ、歴史的事象の背景や、それが社会に与えた影響などをじっくり考えることを楽しむ生徒もいましたが、多くの生徒から大学入試に対する不安が上がりました。そこで、２コマで行っていた内容を１コマに圧縮して進度を速めようと考えました。しかし、深く考える活動と進度の確保を両立させる授業設計ができなかったため、赴任２年目は、大学入試を念頭に進度を重視し、私が解説し続ける講義型授業に変えました。ただ、数コマに１回は、歴史の本質に迫る問いに取り組ませ、歴史から生きるヒントを学んでほしいという私の思いを授業に反映させました。

私は授業設計を学び直そうと、授業設計に関する書籍を片っ端から読みました。そこで出合ったのが、教育・研修をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論「インストラクショナルデザイン」です。それについて学べる熊本大学の鈴木克明名誉教授の講座が東京で開講されていたため、早速受講しました。「ＡＲＣＳモデル」（＊１）や「学校学習の時間モデル」（＊２）などの理論を学び、単元ごとにＭＱを設定することや、まずは生徒が自分で学んで知識の理解度を把握した上で教師が解説する授業の構想を練っていきました。

並行して自己調整学習の理論も学ぶ中で、学びに受け身的な生徒に、生涯求められる、自分に必要な学びを自分で考えて学ぶ力を身につけてほしいという思いが強くなっていきました。ただ、いきなり何でも自分で選べるようにすると生徒は戸惑うだろうと考え、まずはプリントの取り組み方を自分で選べるようにしました。そして、協働学習ができる時間を設けて、対話的に学ぶか、１人で学ぶかも選べるようにしました。多様な他者と対話することができるよう、２コマに１回、席替えもしています。

そうして形づくった授業を赴任３年目から始め、今も改善を重ねています。

「思考・判断・表現」の観点の評価を踏まえた上で、自分なりの言葉でＳＱの解答を書くことができていれば、それはＳＱについて主体的に考え、粘り強く取り組んだ態度の表れと捉え、「主体的に学習に取り組む態度」の評価をＡとしています。生徒には、ＳＱの解答が「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料になることを伝えています。

定期考査は、ＳＱを基にした問題を出し、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価材料にしています。授業にしっかり取り組み、ＳＱの添削を復習していれば答えることができる問題です。

成果と展望

ＳＱの解答を生成ＡＩを活用して評価し、自己調整学習を拡大したい



25年1月末に、3年生を対象に実施した授業アンケートの回答には、「深く考える習慣が身についた」「歴史的事象のつながりを自分で見つけることが面白い」といった声が書かれていました。何よりもうれしいことは、「日本史を学ぶのが楽しい」という声が多かったことです。「もっとＭＱやＳＱを出してほしい」といった声も複数あり、知的好奇心の高まりを感じました。試行錯誤しながらも私が理想とする授業を追求してきてよかったと思っています。

今後の課題は、さらに生徒主体で学びを進めていく授業の設計です。そのために、ＳＱの解答を生成ＡＩを活用して評価する方法を模索しています。教師が設定した評価規準を生成ＡＩに読み込ませ、入力した生徒の解答に自動的にフィードバックする仕組みができれば、生徒はそのフィードバックを踏まえて解答を再考することができるため、自分で学びを進めやすくなるはずです。

ＭＱに解答することをゴールとして、そこまでの道のりは生徒が自分で見通しを持って進んでいけるように、生徒のマインドセットなども含めて授業設計を見直していきたいと考えています。

＊１ アメリカの教育工学者ジョン・Ｍ・ケラーが提唱した学習意欲に関するモデル。　＊２ ジョン・Ｂ・キャロルが提唱した、課題を達成する学習時間に関するモデル。